

今回からこの連載を担当することになりま

した慶應義塾大学医学部の渡辺賢治です。医学部を志望した頃から漢方医学を目指して今日に至っております。

漢方医学が古臭い医学だなんて言わないで下さい。人類の歴史から考えれば、ほんの最近体系化された医学です

体、何よりも人間の本質自体がこの何千年と変わっていないように思

世界の中には、朝起きれば羊を放牧して夕方集めた、夜が来れば寝るといった生活を、脈々と続けている人々がいます。恐らくお父さんも、おじいさんも、何十代もの間、同じ生活を続けてきたことでしょう。われわれは文明の進歩を享受しているように錯覚しています

が、便利な社会になっ

て、生物学的にはむしろ

退化しているかもしれま

せん。

われわれは日常の中で、ありとあらゆる情報の中で生活しており、それが文明だと考えております。1日でも新聞やテレビがないと不安になります。果たしてそうでしょうか？

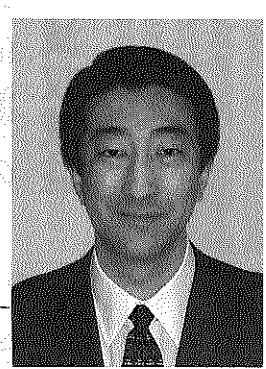
中根千枝さんの「未開の顔 文明の顔」の中で、インドの人々の価値観に

ついて触れてあります。新聞を2〜3日遅れて読んで平気で

読むでも平気で

### 漢方シリーズ ①

慶應義塾大学医学部助教授



渡辺賢治

## 漢方医学は古臭い？

す。その頃習っていた少林寺拳法の先生は中野益臣先生とおっしゃり、創始者の宗道臣先生の高弟でした。突き、蹴りの練習の時は胴着といって、剣道の硬い胴を身につけて練習をします。

ある時、中野先生が、軽く蹴っただけであの硬い胴着が真の二つに割れてしまいました。周りの

有段者もおおっと声を出したのですが、当の中野先生は涼しい顔をして「あ、割れた」と穏やかにおっしゃられたのが印象的でした。今考えたらまさに「氣」のなせる業だと思えます。

その中野先生が講話の中で、ご自分の指を動かされて、「どんなに科学が進歩しても、こんな細

### 渡辺賢治氏の略歴

- 1984年：慶應義塾大学医学部卒業、同大学内科学教室
- 1990年：東海大学医学部免疫学教室助手
- 1991年：米国スタンフォード大学遺伝学教室留学
- 1995年：北里研究所東洋医学総合研究所
- 2001年：慶應義塾大学医学部東洋医学（現漢方医学）講座助教授
- 現在：日本東洋医学会理事・指導医、内科専門医、米国内科学会 上級会員など

かい動きのできるロボットは作れない」とおっしゃられました。人間がいつ現在のようになっ

たのかは分かりませんが、少なくとももの何千年かの間、大きな変化はないように思えます。

人間の本質が変わらない以上、たかだか2000年前に用いられていた漢方薬が現代社会で重用されることに、何ら不思議はありません。現に紀元前1世紀に書かれた黄帝内经「上古天真論篇」には、「昔の人は100歳まで生き、しかも動作が衰えなかったの

に、今時の人は50歳で動作が衰えてしまうのは何故か」という黄帝の問いがあります。

これに岐伯が答えて言うのには、「昔の人は節度をわきまえていたが、今の人は酒を沢山飲み、生活に節度がないために50歳で衰えてしまう」というのです。いつの時代でも「昔は良かった。それに比べて今の者は」と言うのが常ですが、この場合の「今時の人」というのは紀元前の人ですから、人間の本質はほとんど変わっていないものだから、自己反省も込めて思う次第です。